

Weekly
Report

東京お茶の水ロータリークラブ

2025-26年度RI会長
フランチェスコ・アレツォよいことの
ために
手を取りあおう

第2580地区ガバナー 中川 雅雄

1. クラブをもっと元気にしよう
例会を楽しみましょう
 2. 地域社会に役立つ活動をしよう
 3. デジタルをうまく役立てよう
- +ONE よい事はマネしよう

思いやりの心を大切に

2025-26年度 クラブ会長 山田 丈夫



本日の卓話

会社の存続を支えるもの

(株)生産者直売のれん会 代表取締役社長 黒川 健太様

司会進行
点鐘
奉仕の理想
ニコニコボックス報告
会長報告
幹事報告
出席報告

西村美智子会員
山田 丈夫会長
海江田健司会員
西村美智子会員
山田 丈夫会長
木村 良成幹事
西村美智子会員

ゲスト・ビジター

ゲストスピーカー・元米山奨学生 チ ミン カン様

誕生日祝い

8 月 15 日
藤本 豊大会員
8 月 19 日
土居 岩生会員
藤本 豊大会員



ニコニコボックス

山田会長 夏休みいかがでしたか。私は孫と遊んでつかれました。

土居会員 カンさんの卓話、楽しみです。チャンマーは、どこに向かっているのか？

岩佐会員 本日の卓話楽しみにしております。皆さま、猛暑の中、ご自愛ください。

加藤会員 本日の卓話よろしくお願いします。久しぶりの参加です。宜しくお願い致します。

大原会員 卓話楽しみにしています。

岡田会員 チミンカンくん。今日はよろしくお願いします。

高山会員 チミンカンさん、お話しを楽しみにしています。

角田会員 チミンカン君の卓話楽しみです。

渡辺会員 チミンカンさんの卓話、楽しみにしています！

山下会員 本日のチミンカンさんの卓話が楽しみです!!

計 24,000 円 累計 189,000 円

会長報告 山田 丈夫会長

・来月 9 月 10 日はオープン例会です。本日ご案内を皆様に配布しました。ご友人、ロータリーに興味のある方をぜひお誘いください。このお茶の水 RC を大きく

していきたいと思っております。

・8 月 27 日に予定していた納涼家族親睦会ですが、日根野親睦活動委員長をはじめ、色々手を尽くしましたが、30 名保証のうち出席者が 12 名で、差額人数分がクラブ負担になるため、相談した結果、今回は延期ということになりました。参加連絡いただいた皆様申し訳ありません。次回素晴らしい企画をまた考えますのでよろしくお願いします。

幹事報告 木村 良成幹事

- ・8 月度理事役員会を開催いたしました。
- ・納涼家族親睦会が延期となったため、来週は休会扱いとなります。お間違えのないようお願い致します。
- ・月 1 回断食基金へのご協力ありがとうございました。

ロータリーの友 8 月号の紹介 山下 憲男会員

今月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」ということで特集が組まれております。

大分にある E クラブが、創立時 42 名だったところが 62 名まで増えていて、オンラインではなくて E クラブということで、そういった事例が書かれています。この中には「国境を越えて集う 2720 JAPAN O.K. ロータリー E クラブは、柔軟性に力を変え、ロータリーの新たな可能性を体現しています。オンラインという柔軟な形で世界中の仲間とつながり、行動計画に沿った具体的な奉仕と対話を実現する姿に、心から敬意を表します」と書いてあります。我がクラブもオンライン会員制度があるので、こういったことを勉強し、我々は正規のクラブですから、そういったものも広がればいいかなと考えています。ベース、インフラは揃っていますので、ぜひともよろしくお願いしたいと思います。

また 11 ページに、ロータリー会員増強コーディネーター、当地区の若林英博さんが、戦略的オープン例会の 10 のポイントということで掲載しております。ご一読ください。

今後の予定

- 9/10 (水) (於)東京ドームホテル オープン例会
昭和学院理事長 山本徹様(東京 RC)
「コメの価格・供給の安定方策について」
- 9/17 (水) (於)ブックハウスカフェ
クラブフォーラム
- 9/24 (水) 休会

揺れるミャンマー 現在の情勢とその背景

2021 年の軍事クーデター以来、ミャンマーは再び混乱の中にあり、国民は苦しい生活を強いられています。本稿では、ミャンマーの歴史を振り返りながら現在の情勢を整理し、紹介したいと思います。

■独立と民族問題の始まり

ミャンマーは 1948 年にイギリスの植民地支配から独立しました。形式上は民主国家としての歩みを始めましたが、国内には 135 を超える民族が存在していました。多数派であるビルマ族と、カチン族やカレン族などの少数民族との間には深刻な不信と分断が残され、独立直後から内戦が勃発しました。統一国家をつくる理想は遠く、国民の間には「同じ国民であっても互いに敵になる」という悲しい現実が続いてきました。

■軍政の誕生と長期化

1962 年、ネーウィン将軍がクーデターを起こし、国は軍政の支配下に置かれました。彼が掲げた「ビルマ式社会主義」は鎖国的で、外国との交流を断ち、国民生活を苦しめました。紙幣の突然の無効化は多くの家庭を混乱に陥れ、教育ではビルマ文化やビルマ語を優遇する偏ったカリキュラムが導入されました。さらに、報道や言論は厳しく制限され、人々は自由に意見を表すことすらできませんでした。

この時代、国民は国際社会から取り残されていきました。経済は停滞し、貧困が拡大する一方で、国軍は権力と富を握り続けました。こうして「軍による独裁政権」が長期化し、民主化を求める声は次第に大きくなっていきました。

■民主化運動とアウンサンスーチー氏

軍政への不満が爆発し、1988 年 8 月 8 日「8888 民主化運動」が起こります。学生、僧侶、公務員、そして一般市民が街頭に出て、軍事政権の終結と民主化を訴えました。この運動の中心に立ったのがアウンサンスーチー氏です。母の看病のために帰国していた彼女は、一躍民主化の象徴となりました。

しかし、軍は徹底的な弾圧で応じ、3,000 人以上の市民が命を落としました。1990 年に行われた初の複数政党制選挙で、スーチー氏率いる国民民主連盟（NLD）が圧勝しましたが、軍は結果を無視し政権を手放しませんでした。多くの民主化活動家が投獄され、スーチー氏自身も長期にわたり自宅軟禁されました。

■民主化への希望とその限界

2011 年、軍事政権は部分的に民主化へ舵を切ります。スーチー氏が釈放され、海外投資が流入し、経済は急速に変化しました。スマートフォンの普及やインターネットの拡大により、市民は新しい情報に触れ、政治や社会について自由に語れる空気が広がりました。

2015 年、NLD が総選挙で圧勝し、民主体制が現実のものとなるかに思われました。しかし、2008 年憲法により軍は議席の 25% を自動的に確保し、主要産業も握っていました。つまり「軍服を脱いだ軍人」が表舞台に出ただけで、真の意味での民主主義とは言えませんでした。

■2021 年のクーデターと若者の抵抗

2020 年の選挙でも NLD が圧勝すると、軍は「選挙に不正があった」と主張し、2021 年 2 月 1 日に再びクーデターを執行しました。スーチー氏や与党幹部は拘束され、国家非常事態が宣言されました。

これに対して国民は平和的なデモで抗議しました。特に Z 世代と呼ばれる若者たちが積極的に参加しました。彼らは SNS を通じて情報を共有し、歌やアートを用いて抵抗を表現しました。公務員は「市民的不服従運動（CDM）」を展開し、病院や学校の機能が停止するほど広がりました。しかし、軍は容赦なく市民を弾圧し、2025 年 8 月の時点で 7,000 人以上が犠牲となっています。

■経済・教育・人道危機

クーデターによる不安定な状況は、経済と社会を大きく崩壊させました。海外企業は次々と撤退し、GDP は縮小しました。通貨は急落し、物価は高騰。人口の約 50% が貧困層に追い込まれていると言われています。

教育も深刻です。700 万人以上の子どもたちが学校に通えず、未来を担う世代が学ぶ機会を失っています。さらに徴兵制が導入され、若者たちは兵士になるか、逃げるかという選択を迫られています。

2025 年 3 月にはミャンマーの第 2 都市であるマンダレーを中心に大地震が発生しました。耐震対策が整っていなかったため被害は甚大で、多くの家屋が倒壊しました。しかし政府からの支援はほとんどなく、人々は路上生活を余儀なくされています。軍事支配と自然災害が重なり、人道危機はかつてないほど深刻になっています。

■国際社会に求められるもの

ミャンマーは独立以来、軍政と民主化運動の間を揺れ動き、常に内戦と弾圧にさらされてきました。一時的に民主化が進んだように見えても、それは長く続かず、2021 年のクーデターで後退しました。今、国民は「紛争に巻き込まれる」「抵抗する」「国外へ逃れる」という過酷な三択に直面しています。

留学生として海外で暮らす私は、ミャンマーが世界から忘れられてしまうのではないかとこの恐怖を抱いています。国際社会が人権や民主主義を重んじるなら、ミャンマーへの支援と圧力をもっと強める必要があります。経済制裁や外交交渉だけでなく、人道支援の拡大が不可欠です。

■おわりに

独立以来、軍政と民主化の間で揺れ続けてきたミャンマー。いまでも人々の生活は不安定に揺れ動いています。日本での日常は、ミャンマーの現実とあまりにも対照的です。自由に学び、安心して暮らし、未来を語り合えることがどれほど貴重かを、私は日本での生活を通して身に染みて理解しました。祖国では、同世代の若者が自由を求めて命を落としています。その姿を思うと、私はただ「無力な観客」にすぎないと痛感します。現状を伝え続けることが未来につながると信じており、ミャンマーの人々が再び平和に暮らせる日を夢見ながら、私はここから声を上げ続けたいと思います。

出席報告

会 員 数	35 名	ゲ ス ト	1 名
出 席	20 名	ビ ジ タ ー	0 名
Z O O M	1 名	合 計	22 名